

ザラカイメン目タンスイカイメン科

シロカイメン

Spongilla alba Carter, 1849

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

汽水域の塩分濃度がある程度の範囲内と安定したところで、さらに生息域として一定以上の広さを必要とするので、生息地が限られる。

【概要】

水中の固形物の表面を平盤状に覆うように付着する。表面には多くの不規則な形の短い突起をもつことが多い。汽水域のみに生息し、冬期は芽球の形で越冬する。国内では茨城県涸沼、鳥取県東郷湖と島根県の宍道湖のみに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖全域とそこから流出する河川の湖寄りの区域に分布するが、塩分がより高濃度な中海や、より低濃度な宍道湖の流入河川には生息していない。

【存続を脅かす原因】

塩分濃度を変化させるような開発工事。生息地の富栄養化による水質変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	汽水	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

ザラカイメン目タンスイカイメン科

ヨコトネカイメン

Sanidastra yokotonensis Volkmer et Watanabe, 1983

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息記録がわずかで、しかも常時、確認できるほど多くは生息していない。

【概要】

水中の固形物の表面を薄層状に覆うようにまたは塊状になって付着し、その表面に多くの不規則な長さや形の突起をもつ。冬期は芽球の形で越冬する。

茨城県の横利根川から発見され新属新種として記載されたが、採集記録は国内ではその後の宍道湖の記録との2つしかない。どちらもカワカイメンと同所的分布をし

ていた。芽球の殻に含まれる骨片は突起を不規則な方向に出すことやその数も一定でない点の特徴である。

【県内での生息地域・生息環境】

宍道湖の船川河口近くの岸から一度だけ確認された。その生息地の水深は浅く、塩分濃度は淡水に近かった。

【存続を脅かす原因】

生息地の物理的な環境変化と富栄養化による水質変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	汽水	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

淡水海綿類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足